

株式会社テクノスマート

2022年3月期 第2四半期決算説明資料

2021年12月31日現在

証券コード：6246

東京証券取引所 第2部

<https://www.technosmart.co.jp/>

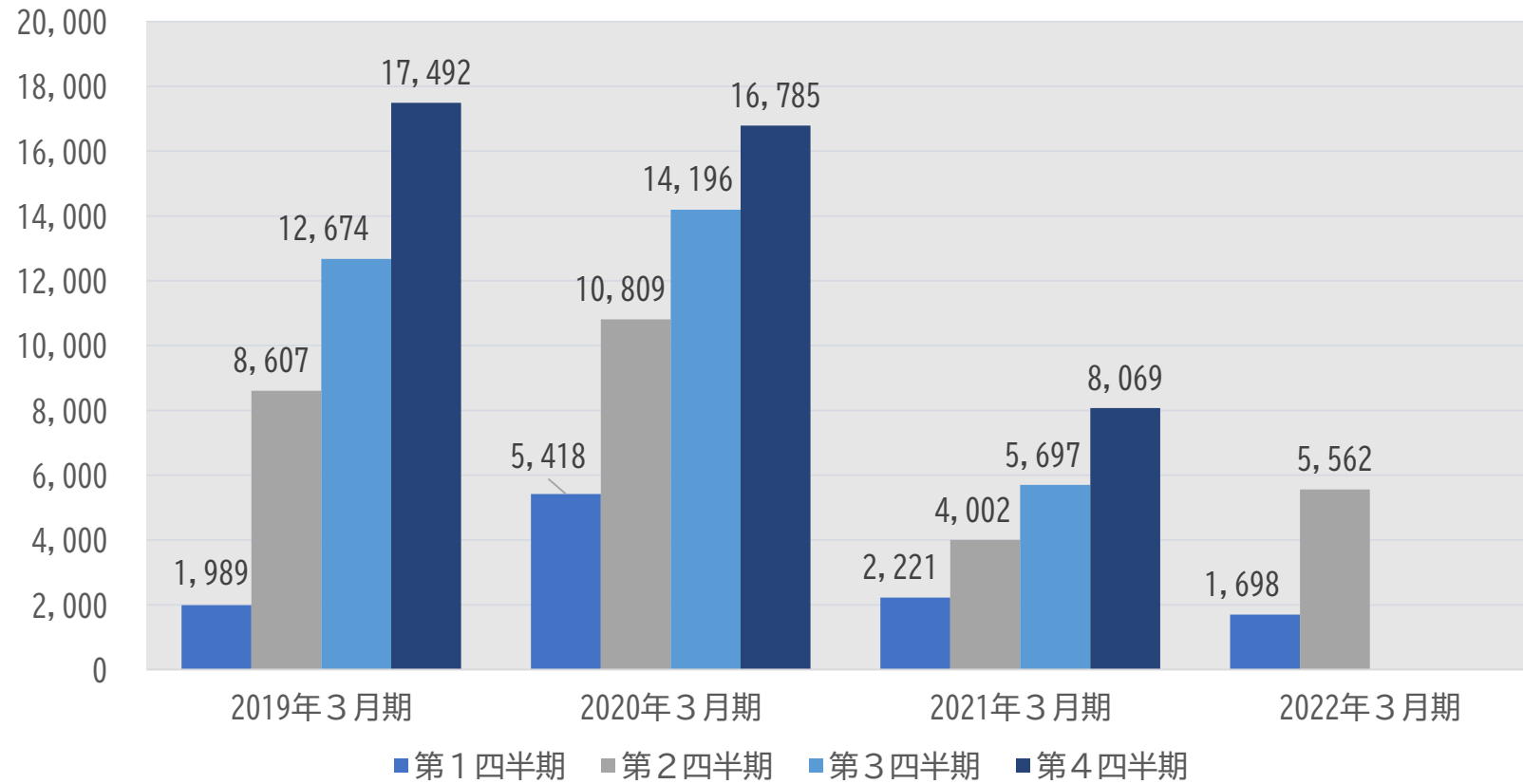
2022年3月期 第2四半期決算 概要

(注) 金額や売上高などの数字については遡及前の数字を記載しております。

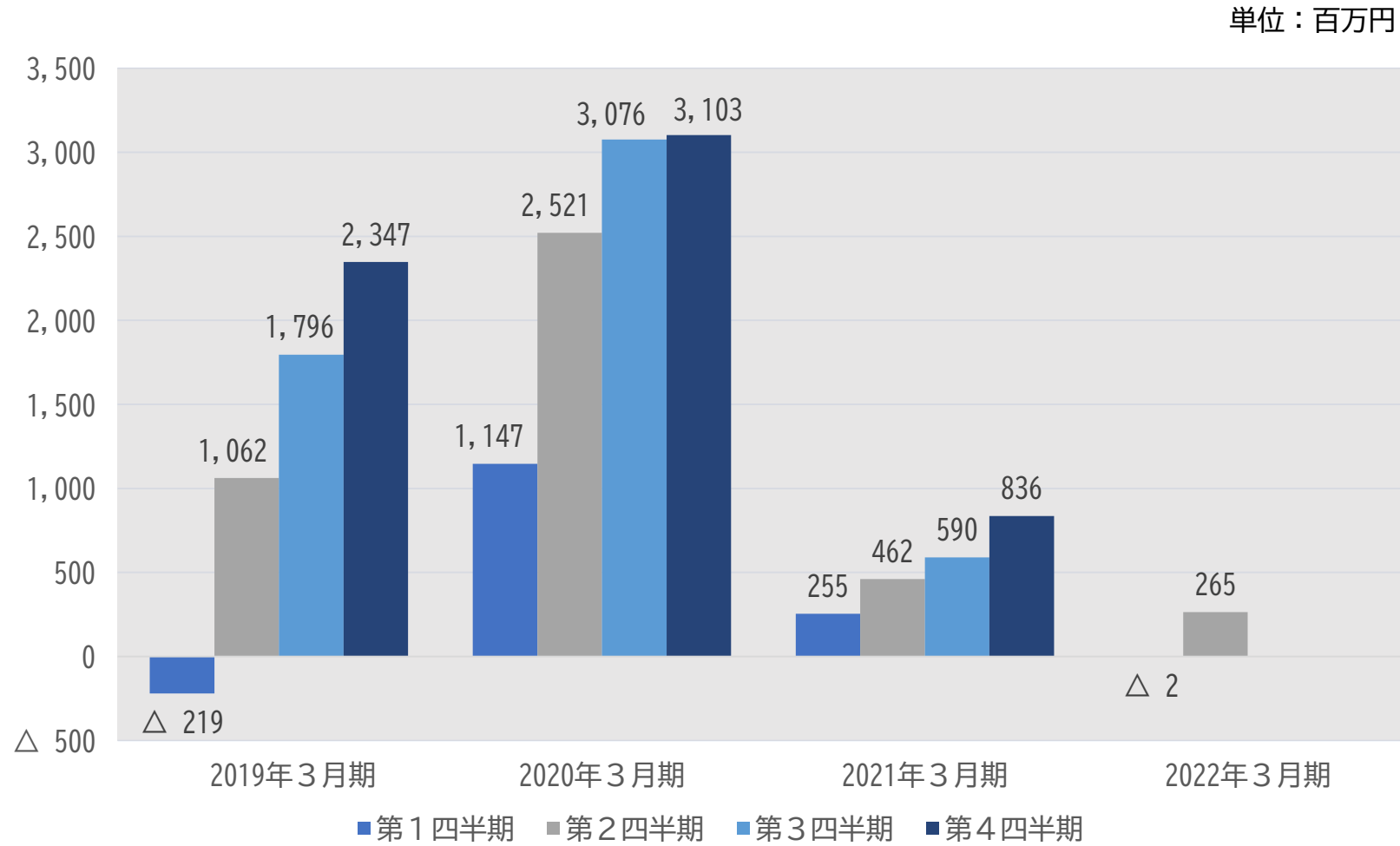
単位：百万円

	2021年3月期 第2四半期		2022年3月期 第2四半期		
	金額	売上高 構成比 (%)	金額	売上高 構成比	増減率
売上高	4,002	100%	5,562	100	+39.0%
売上総利益	699	17.48%	675	12.13	△3.5%
販管費	237	5.93%	410	7.37	+72.7%
営業利益	462	11.54%	265	4.76	△42.6%
経常利益	489	12.21%	297	5.34	△39.2%
当期純利益	256	6.4%	197	3.54	△23.1%

単位：百万円

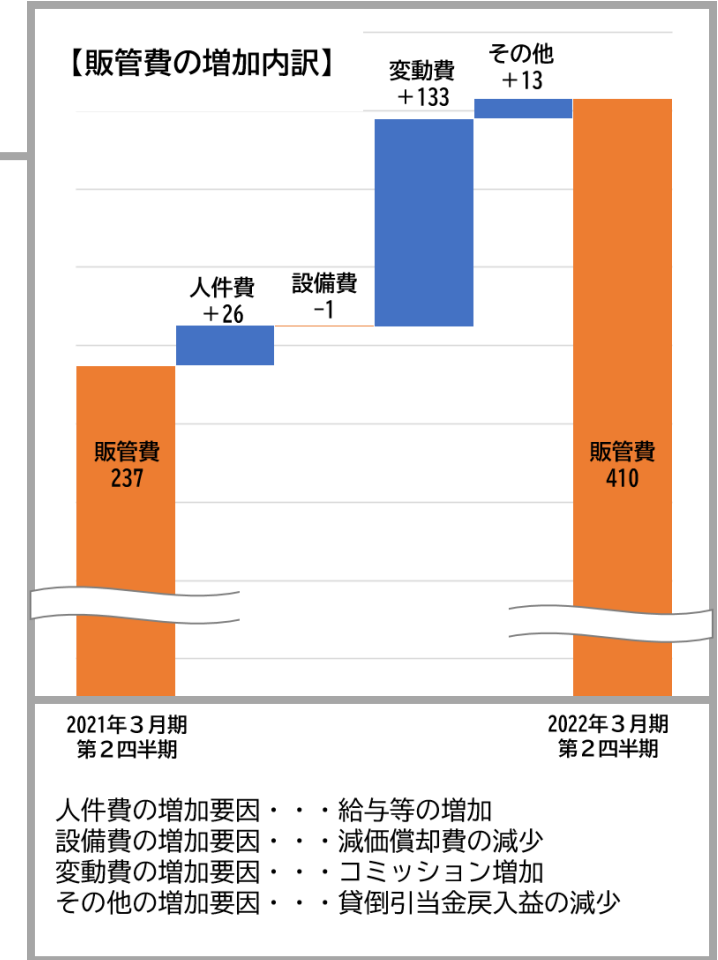
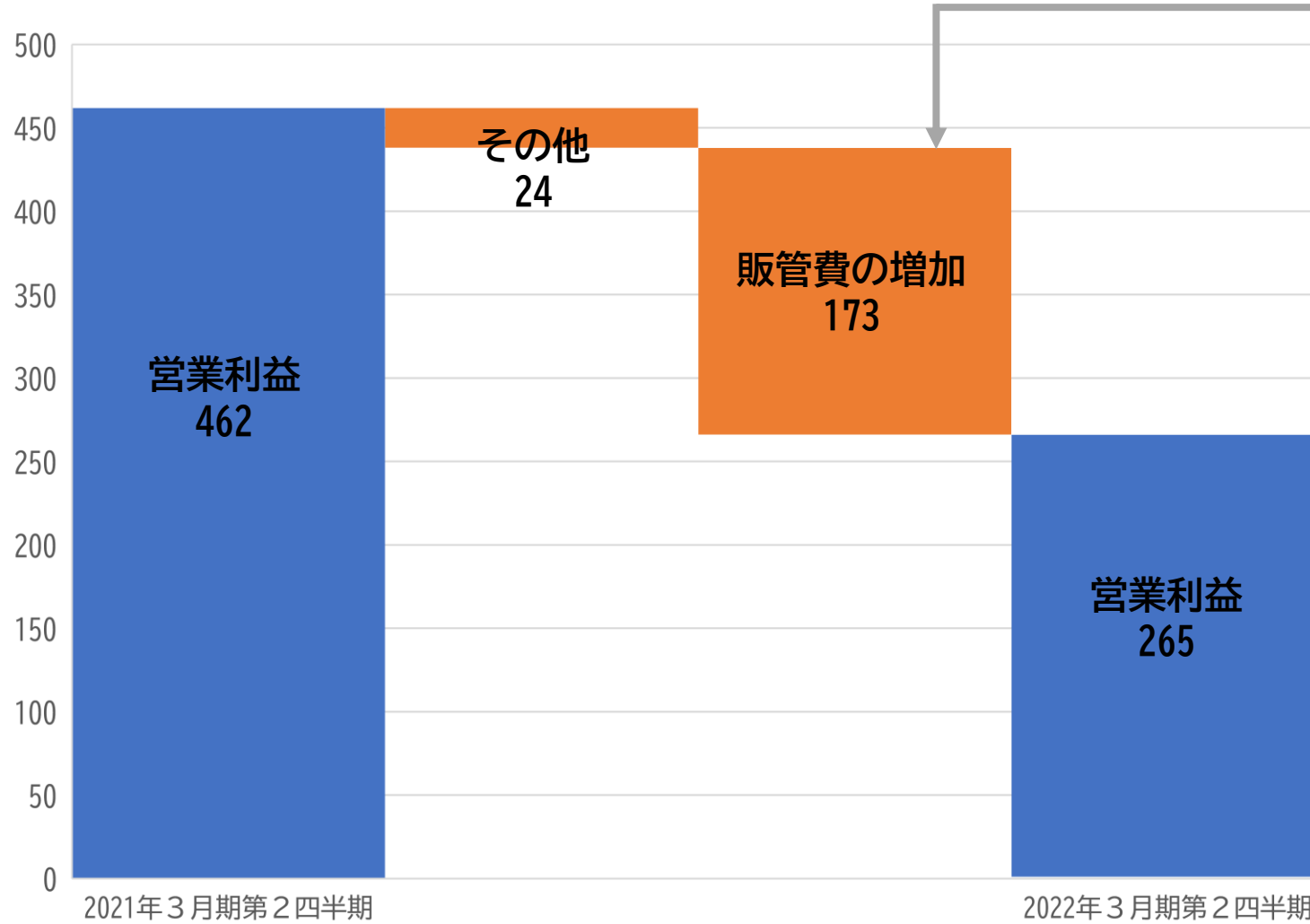


②営業利益の推移



③営業利益分析

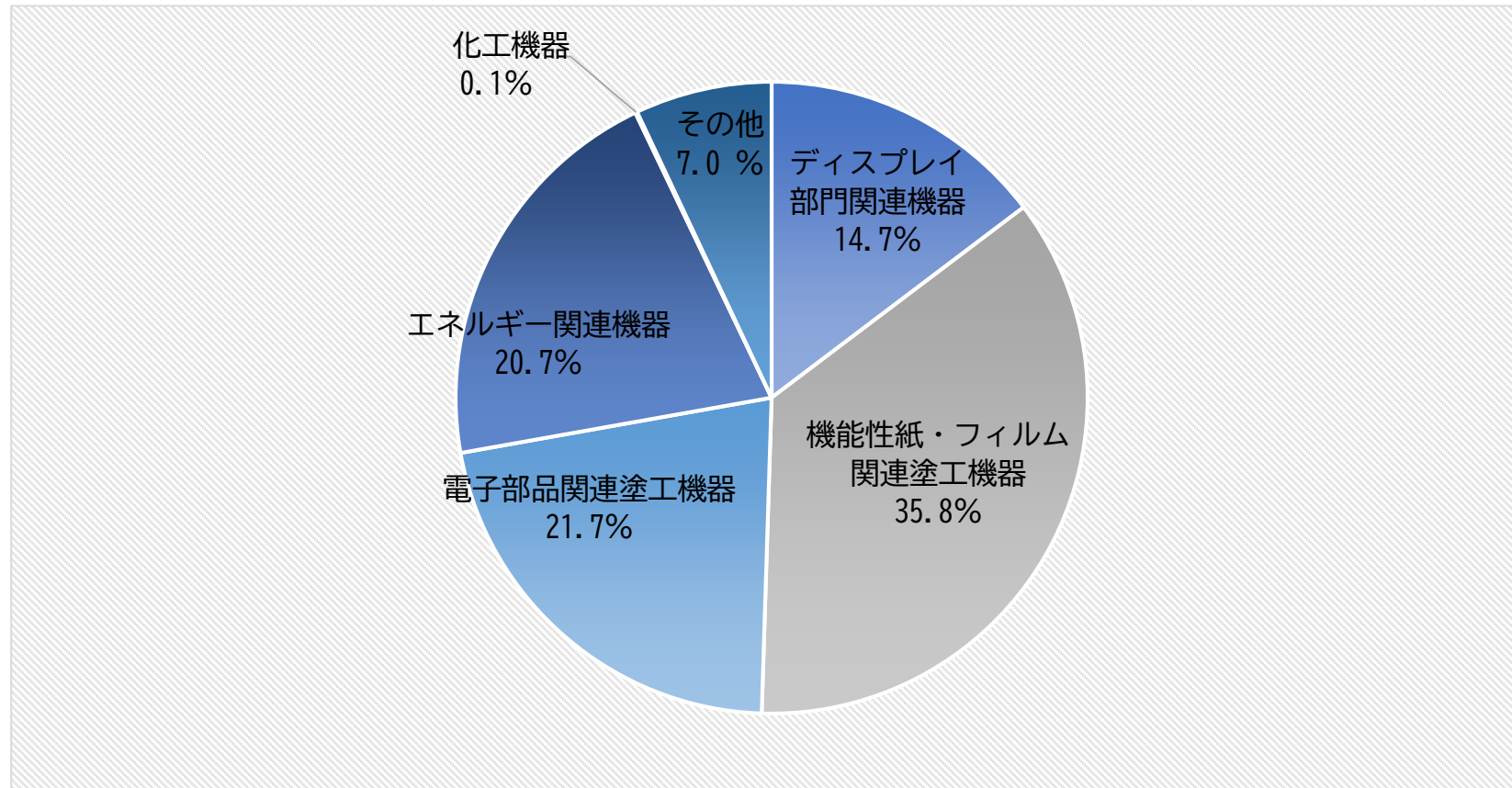
単位：百万円



④製品別売上高

単位：百万円

	2021年3月期 第2四半期		2022年3月期 第2四半期			[ご参考] 用途
	売上高	売上高 構成比	売上高	売上高 構成比	増減率 (%)	
①ディスプレイ部品 関連機器	531	13.3	818	14.7	53.9	フィルム製膜装置（ディスプレイ用透明PI）
②機能性紙・ フィルム関連塗工機器	2,368	59.2	1,992	35.8	△15.9	濃ビP0フィルム乾燥装置
③電子部品関連塗工機器	266	6.7	1,206	21.7	353.1	フィルム製膜装置（FCCL用PI）
④エネルギー関連機器	405	10.1	1,153	20.7	184.7	電池用セパレータ、外装用アルミ箔処理装置
⑤化工機器	74	1.9	6	0.1	△91.6	高機能性繊維・不織布関連の製造・乾燥・ 熱処理装置
⑥その他	356	8.8	384	7.0	8.0	
合計	4,002	100.0	5,562	100.0		



2. 貸借対照表

単位：百万円

	2021年	2022年3月期	
	3月期	第2四半期	
	金額	金額	増減額
流動資産	16,652	18,455	+1,803
現金及び預金	10,461	9,878	△582
売上債権	5,572	7,993	+2,421
棚卸資産	252	332	+80
未収還付法人税等	205	-	
その他	176	252	+75
貸倒引当金	△14	△0	
固定資産	5,534	6,175	+641
有形固定資産	3,925	4,558	+633
無形固定資産	12	10	△1
投資その他の資産	1,596	1,605	+9
資産合計	22,186	24,630	+2,444
負債の部	5,450	7,855	+2,405
流動負債	4,149	6,535	+2,386
仕入債務	2,325	3,785	+1,459
前受金	1,458	2,025	+567
その他	365	724	+359
固定負債	1,300	1,319	+19
純資産の部	16,736	16,775	+39
株主資本	15,140	15,174	+34
評価・換算差額等	1,596	1,600	+4
負債・純資産合計	22,186	24,630	+2,444
有利子負債	2	-	
自己資本比率 (%)	75.4	68.1	△7.3

【主な動き】

- 資産・・・24億44百万円の増加
 - ・受取手形、売掛金、契約資産・電子記録債権の増加 23億98百万円
 - ・有形固定資産の増加 6億33百万円
- 負債・・・24億5百万円の増加
 - ・買掛金及び電子記録債務の増加 14億59百万円
 - ・前受金の増加 5億67百万円
 - ・流動負債その他の増加 3億59百万円
- 純資産・・・39百万円の増加
 - ・利益剰余金の増加34百万円

単位：百万円

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	
	金額	金額	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	4,643	△13	△4,656
投資活動による キャッシュ・フロー	△14	△392	△377
財務活動による キャッシュ・フロー	△445	△176	268
現金及び現金同等物 の増減額	4,183	△582	△4,766
現金及び現金同等物 の期首残高	6,088	10,361	4,272
現金及び現金同等物 の四半期末残高	10,272	9,778	△493
(ご参考) フリー・キャッシュ・フロー	4,606	△396	

(注) フリー・キャッシュ・フロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー + 有形固定資産の取得による支出

【主な動き】

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前期末に比べ582百万円減少し9,778百万円となりました。

[営業活動によるC/F]

営業活動の結果使用した資金は13百万円となりました。これは主に売上債権の増加によるものです。

[投資活動によるC/F]

投資活動の結果使用した資金は392百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得によるものです。

[財務活動によるC/F]

財務活動の結果使用した資金は176百万円となりました。これは主に配当金の支払によるものです。

2022年3月期 当社戦略と見通し

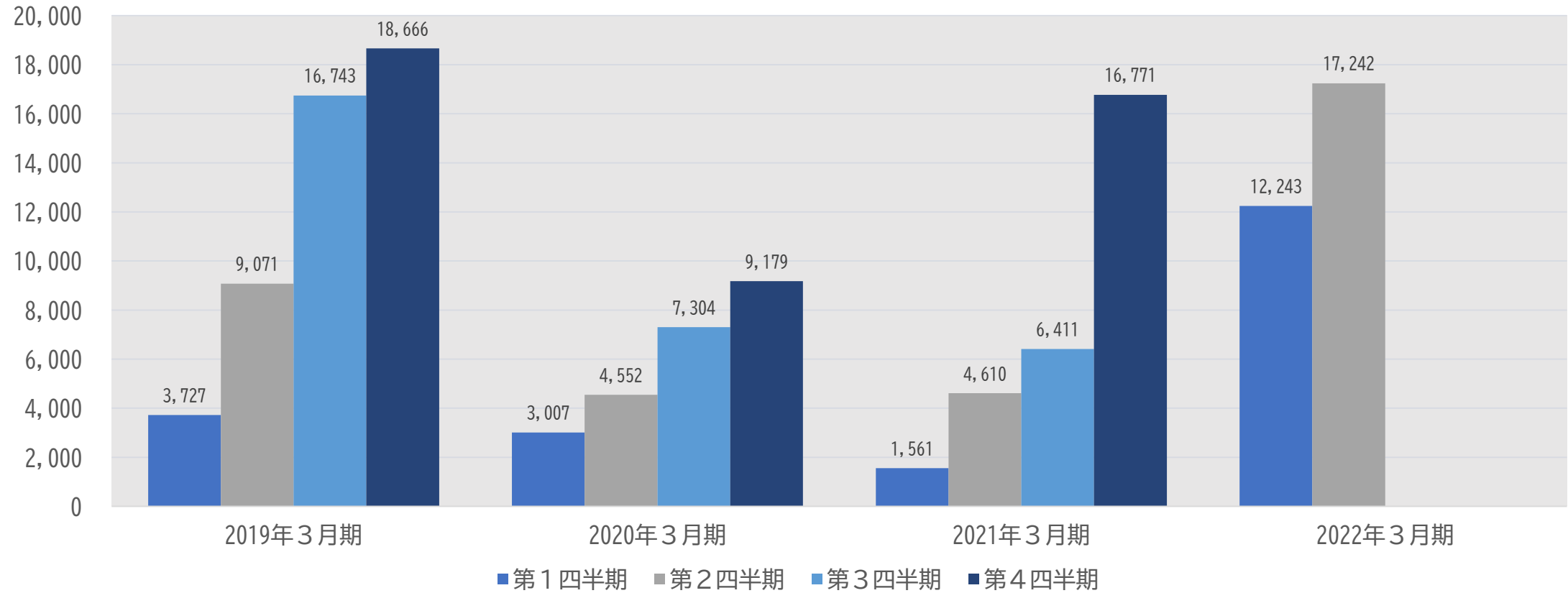
(注) 金額や売上高などの数字については遡及前の数字を記載しております。

		第83期	第84期	第85期	第86期	第87期
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額)	(円)	20.00 (6.00)	30.00 (8.00)	40.00 (15.00)	50.00 (18.00)	18.00 (4.00)
1株当たり当期純利益	(円)	65.38	83.14	131.95	164.06	46.53
配当性向 ※目標：30%以上	(%)	30.6	36.1	30.3	30.5	38.7
株主総利回り(注)	(%)	224.6	367.3	278.8	239.3	441.3
自己資本利益率 (ROE)	(%)	6.6	7.5	11.7	13.0	3.4
株主資本配当率 (DOE) ※目標：1%以上	(%)	2.0	2.8	3.4	3.9	1.3

(注) 株主総利回りは、第87期で基準に算出した数値を記載しております。

2021年度 業績予想 (単位：百万円)	2021年度 (計画)	2021年度 第2四半期末時点	進捗率	
売上高	16,000	5,562	34.8	%
営業利益	1,170	265	22.7	%
経常利益	1,200	297	24.8	%
当期純利益	800	197	24.6	%

単位：百万円



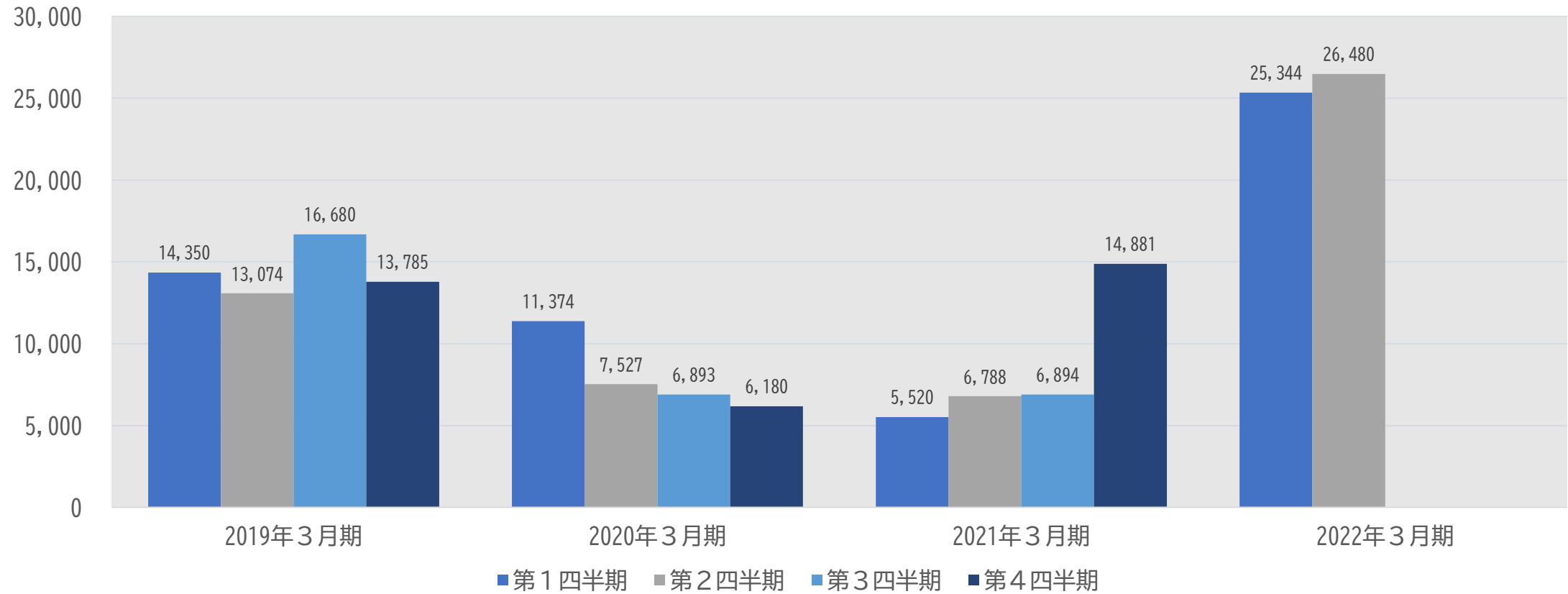
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による業界への影響と、業界の動きや対応

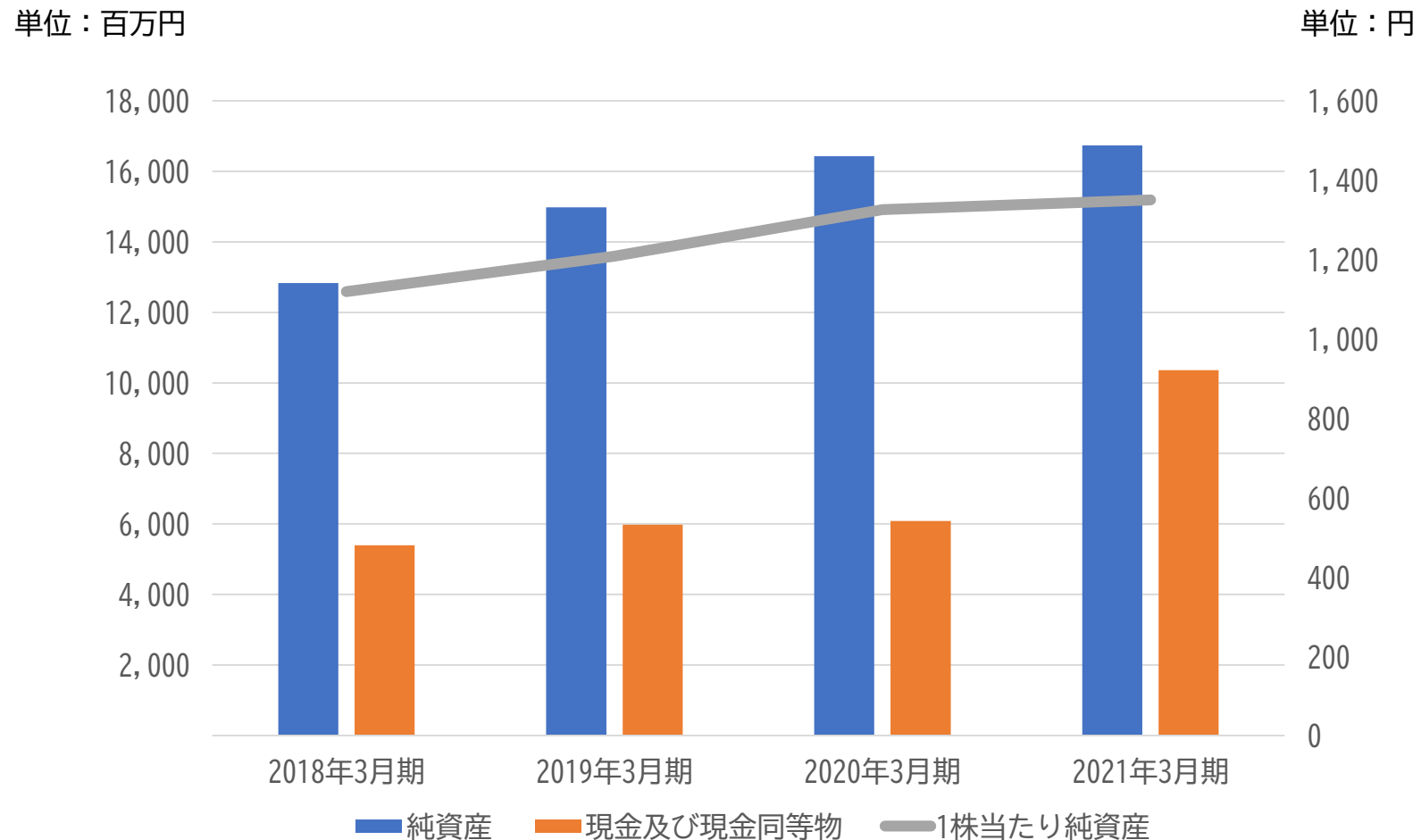
COVID-19による業界への影響	業界の動きや対応
<p>新型コロナウイルス感染者の減少と共に経済活動が活発化し、部品価格の上昇と納期が延びています。</p> <p>その結果新規案件や受注設備の納期に影響を及ぼすような状況</p> <p>イベント中止や消費者、企業の慎重な動き等に、様々な制約が発生し、新規営業が抑制されがち</p> <p>感染拡大防止に配慮した営業活動や社員の働き方が必須</p>	<p>大きな成長が見込まれる車載用リチウムイオン二次電池の電極用、セパレータ用及び燃料電池用塗工乾燥装置、液晶テレビやスマートフォン、タブレット端末用の光学フィルム、タッチパネル用塗工乾燥装置及び電子部品関連塗工乾燥装置の受注強化</p> <p>世界的なEV化の加速に伴い、海外営業の競争激化</p>

社会における当社の役割と、当社の「社会的責任」への取り組み

社会における当社の役割	当社の「社会的責任」への取り組み
<p>当社は、お客様やお取引先様との信頼関係を築いてきたことが自社の強みと認識し、今後もニーズを形にする技術で、新しい価値の創造に取り組み、存在価値を一層高めることにより、全てのステークホルダーの皆様により一層信頼され、社会に貢献できる企業を目指します。</p> <p>当社はお客様との協働開発を通じて、長期間ご利用いただける設備の開発を行う事業活動を通じて、廃棄ロスを低減するなどのSDGs等、さらなる社会貢献に取り組みます。</p>	<p>1960年代から、滋賀事業所における環境汚染物質の排出削減に取り組んでいます。 [期待される効果] 環境負荷の低減</p> <p>当社が製造、販売する設備から環境汚染につながる部品、材料を極力排除し、お客様の生産工程において排出される廃液類の流出事故が発生しない設計、製造を行っています。 [期待される効果] 環境負荷の低減</p> <p>塗工・乾燥装置を標準化することで製品開発から量産までの期間短縮に取り組んでいます。 [期待される効果] 環境負荷の低減</p>

単位：百万円





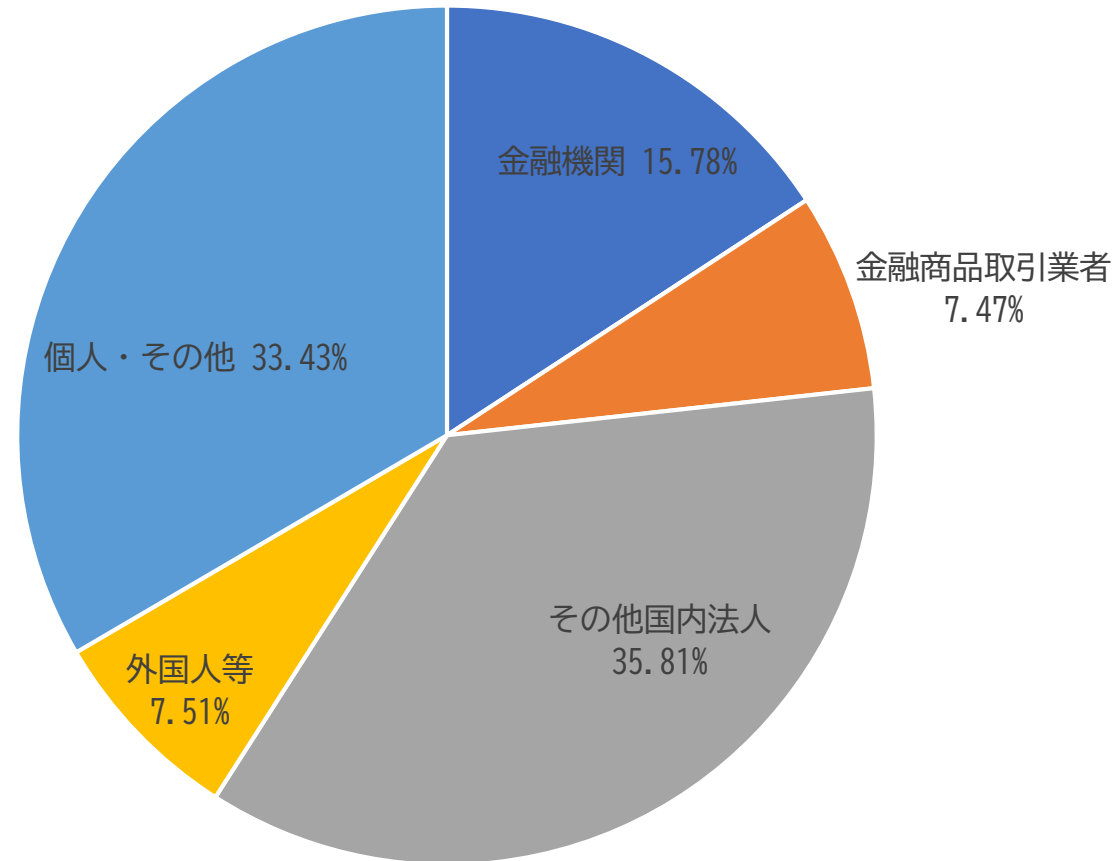
- 既存顧客及び取引先との関係強化を軸として、取引先の新規開拓を推進
- 技術力、製造機能のさらなる充実により、受注能力の拡大推進
- 先端技術分野に貢献する機器の開発
- 顧客との協働による開発の推進
- デジタル化、自動化の推進
- S D G s など事業活動を通じたさらなる社会貢献

	2022年3月期		
	第2四半期（実績）		通期（計画）
	（百万円）	前年 同期比	（百万円）
売上高	5,562	+39.0%	16,000
売上総利益	675	△3.5%	非公開
販管費	410	+72.7%	非公開
営業利益	265	△42.6%	1,170
経常利益	297	△39.2%	1,200
当期純利益	197	△23.1%	800

株主還元について

(注) 金額などの数字については遡及前の数字を記載しております。

所有者別株式分布



■ 配当の基本方針

当社の利益配分につきましては、すべてのステークホルダーの皆さまに対し、「公平」且つ「公正」を念頭に置きつつ、また企業体質の一層の強化と、今後の事業展開に備えるための内部留保の充実、自己株式の取得、安定的な配当及び各期の業績等を総合的に勘案し、配当性向30%以上、DOE（株主資本配当率）1%以上を継続的に実現できることを目指し、株主の皆さまへ適正な利益還元を図ります。

なお、株主優待は実施していません。

■ 2022年3月期について

決算年月	実績					予想
	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
1株当たり 当期純利益金額 (円)	65.38	83.14	131.95	164.06	46.53	
1株当たり 配当額 (円)	20.00	30.00	40.00	50.00	18.00	20.00
配当性向 (%)	30.6	36.1	30.3	30.5	38.7	

お問い合わせ先等

本資料の内容に関するお問い合わせにつきましては、
下記までお願い申し上げます。

管理統括部 企画・IR推進グループ
TEL 06-6253-7200（代表）

本資料には、当社の業績見通し等の将来に関する記述が含まれておりますが、これらは、本資料作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づくものであり、実際の業績等につきましては、今後様々な要因により、大きく異なる可能性があります。